スギタニルリシジミ♀の2暗化型

原 聖 樹
(220-02) 神奈川県津久井郡津久井町中野617 北相寮

Two dark forms appearing in the females of *Celastrina sugitanii* Matsumura (Lepidoptera : Lycaenidae)

SEIKI HARA

スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii sugitanii* Matsumura の暗化型を所持しているので，記録しておく．報告に当たり，写真撮影の労をとられた森井謙介・伊藤正宏両氏，および本誌への発表をお勧め下さった高橋昭氏に深謝したい．

暗化型2例

いずれの個体も，暗化は翅表に認められ，裏面は正常である．

1. ♀（前翅長13mm，新鮮体）（Fig. 1）

正常個体に比較すると，前翅では外縁部の黒帯が幅広く，かつ青紫色鱗も暗い．後翅は一様に暗化して地色は前翅と同様であるが，青紫色鱗は痕跡程度でほとんど認められない．山梨県大月市倉岳山産，1970年5月2日，筆者採集．

2. ♀（前翅長12mm，新鮮体）（Fig. 2）

前翅は正常である．後翅は一様に灰褐色（前翅外縁部の黒帯よりも地色は明るい）を呈し，青紫色鱗は認められない．横山・若林（1965）が図示した暗化個体とよく似ている．また．日浦（1970）による京都貴船産の異常型1♀は，もしも後翅表に青紫色鱗を欠くものとすれば（その点，黒白写真では判定不能），本個体と翅表が酷似している．長野県南佐久郡臼田町雨川産，1974年5月12日，筆者採集．

Figs. 1—2. Dark forms of *Celastrina sugitanii*, ♀.

考 察

大月市産の個体は同時に採集した6♀♀3♂♂中の1♀で，臼田町では本個体以外には得ていない．これらと同様の暗化型については，横山・若林（1965）が「ときに（第59図版165c）のように暗化してしまうものもある」と述べているだけで，あまり注目されていない．

暗化のパターンはウラゴマダラシジミやチョウセンアカシジミのそれと酷似しており，これらの種では暗化型に亜種名が与えられたこともある．ウラゴマダラシジミでは，同一の母蝶によって産卵されたと判断される卵塊を飼育すると一定の比率で暗化した個体が羽化してくるので，これは特定の地域に温存された一つの遺伝型と考えられる（地域によってその出現頻度は異なる）．おそらく，チョウセンアカシジミの場合も同様であろう．また，た

とえばルーミスシジミ♂・ウラクロシジミ♀・ルリシジミ夏型♀・ヤクシマルリシジミ夏型♀・カラフトルリシジミ♀・カバイロシジミ♀・アマミウラナミシジミ♀などでも，ときには同様の暗化個体を見るが，これらの種ではその出現頻度はスギタニルリシジミの場合よりもはるかに高く，それは個体変異の域に含まれるものと解される．

上記した本種の暗化型が異常型であるか，あるいはたんに変異の最極端に位置する個体であるかどうか，この2個体だけではなんともいえない．遺伝型である可能性も否定できないと思う．また，幼生期に高温にさらされた個体(?)と考えられないこともない．いずれにしても，このような暗化型は稀少である．

文献

横山光夫(著)若林守男(増訂)(1965) 原色日本蝶類図鑑，保育社，大阪．
日浦　勇(1970) 日本列島の蝶．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録，2：174，P1. 15．

ミヤマシジミの雌雄型

指田春喜
(920-11) 金沢市金川町ホ三番地　北陸大学薬学部

A gynandromorph of *Lycaeides argyrognomon praeterinsularis* Verity (Lepidoptera : Lycaenidae)

HARUKI SASHIDA

ミヤマシジミ *Lycaeides argyrognomon praeterinsularis* Verity の雌雄型を所有しているので報告しておく．

長野県茅野市守屋山杖突峠

1972年6月25日．筆者採集．

当日，オオルリシジミの分布調査のため同地を訪れ，採集を行った際，登山口付近のコマツナギ *Indigofera pseudo-tinctoria* Matsum. に多数発生している本種を採集したうちの1頭である．

本個体は，左側後翅表面の一部に♂の地色である藍紫色を現したモザイクの雌雄個体であり，交尾器は♀である．後翅表面，1a および 1b，2，3，4 室の橙色帯を除いた大部分と，5，6 室の外縁が藍紫色を呈している．また写真でははっきりしないが，右側後翅表面の2，3，4脈に添った部分が藍紫色を呈しているほかに，前翅においても♀の地色である暗褐色の中に藍紫色の鱗粉がわずかに見い出される．また，裏面は完全な♀の地色と斑紋である．

なお，裏面を示す写真において触角の一本が欠損しているのは写真撮影の際，筆者の不注意により破損してしまい，その修理が間に合わなかったためである．

末尾ながら，写真撮影の労をとられた本学の沢西啓之博士に感謝する．